

にれ

# 楡の木

2002. 9. 20.



**特集**

## エルムの「暑い夏」をふりかえって

「楡の木」は、エルムアカデミーが、父母・生徒・OB・サポーターに向けて発信する、コミュニケーションプレスです。

# みんなでトコトンやるキャンプ



## 2002年度 小学部キャンプ

### 進化を遂げる、エルム小学部キャンプ

昨年度、エルムのキャンプは大きな変化を遂げました。教員が企画・運営の中心を担っていたキャンプから、「自分(たち)のやりたいことをゼロから創りあげるキャンプ」へ……。子どもたちは、やりたいことに沿って班をつくり、計画を練り、話し合いを重ね、最後には、自分たちのやりたかったことを自分たちの力で「実現」させました。そんな子どもたちのたくましい成長を目の当たりにして、今年のキャンプは、昨年以上に子どもたちの「やってみたい」という思いを大切に育てたいと思いました。

まず初めに、「キャンプでやりたいこと」というアンケートを取りました。当初、教員の間では、今の子どもたちに「やりたいこととは何?」と聞いても、「別にない」、「のんびり休みたい」などという答えしか返ってこないのではないかという危惧

がありました。しかしその結果は、驚くべきものでした。25人の子どもたちへのアンケートで、出された「やりたいこと」の数はなんと62個!!教員が予想もしないほどの「やりたいこと」が子どもたちのなかに内在していることを思い知らされたのでした。もちろん、その中には「テレビを観たい」とか、「拳銃を撃ってみたい」、さらには「テレビゲームをしたい」などというものも含まれていたのですが……。

こうして思いつくままに子どもたちが出した要求を、大人が「あれはダメ」、「これは危険」と否定するのではなく、「エルムのキャンプにふさわしい取り組みは何だろう」と、子どもたちと一緒に働きかけ、子どもたち自身が「やりたいこと」を徹底的な話し合いのなかで選り取るようにしました。遅々として進まない話し合いが延々と続きます。



キャンプ前の流しそうめんの実験



子どもたちのつくったお菓子の家



キャンプでも続く話し合い

それでも、次第に教室に真剣さが生まれ、お互いの意見を聴き、自分の意見を発表するという雰囲気自然と生まれます。最初にアンケートをとってから、約一ヶ月の間、子どもたちは討論を続けました。そして、最終的に選ばれたテーマは、食べる、つくる、遊ぶの3つでした。実に奥の深い、まさにトコトン楽しむことのできるテーマを、子どもたちは自分たちの力で選びとりました。班分けもそれぞれが自由に決定し、班のなかでも、さらに何をしようかという話し合いが続きました。こうして五月に準備を始めたキャンプは、ゆっくりではあるけれども、着実に子どもたちの手で

形作られていきました。キャンプ本番でも、様々な問題が起きました。しかしこまめで話し合いを重ね、自分たちの「トコトン」は仲間とのつながりのなかでしか達成できないことをつかみ取った子どもたちのねばり強さは、私たち教員の想像を遙かに超えていました。あらためて、子どもたちのなかに息づいている「人間らしさ」を実感せざるを得ませんでした。そして、私たちの教育の原点である、「子どもの可能性を信じること」を確認し、エルムの夏は終わりました。さあ、一回り大きくなった子どもたちとの二期のスタートです。

私は「食べる班」の担当でした。班のみんなは「食べる」ことにはこだわりを持っていて、それぞれが「やりたいこと」を明確に持っていました。でも、その気持ちを伝えられなかったり、他の人の「やりたいこと」には無関心だったり、「面倒くさいことはやだ」という雰囲気があり、なかなか話し合いも成立しづらい状況でした。この状況が少しずつ変わり始めた

「やるべきこと」には無関心だった。面倒くさいことはやだ」という雰囲気があり、なかなか話し合いも成立しづらい状況でした。この状況が少しずつ変わり始めた

## 子どもを信じる力を実感したキャンプ 教員 大谷志帆

のがブレキャンプでした。私はまず班長の花梨に相談しました。花梨は「この班をもっと盛り上げる班にしたい」と、話し合いの時には努力して意見を言うようになり、班の雰囲気自ら少しずつ変えていきました。同じ6年生の高旗も、4・5年生の男子に積極的に声をかけ、「料理の鉄人でどんなことをすれば優勝できるのか」など意見を出してくれました。もう一人の6年生の桃絵も、料理の鉄人で作る芋パスタの実験で、リーダー的な力を発揮し始めました。6年生の変化で、全体の雰囲気も変わっていきました。

キャンプ本番の一日目は、ブレキャンプの勢いに乗って、カルポナーラが大成し、大きな満足感を持つことができました。しかし、波乱は二日目にやってきました。みんなで意気込んでいた「料理の鉄人」が大きな壁となりました。「絶対に優勝しよう」と、流

しそつめんの装置を作り、団子スー  
プと芋パスタを流して審査員まで  
届けるといつ、みんなで盛り上がっ  
ていた企画でした。でも実際は準  
備不足で装置がうまくできず、他  
の教員が手伝ってやっとできる  
という状況でした。その混乱の中  
で、職員も力を合わせる事ができず、  
職員も教員もお互いが不信を持ち、  
一日目の盛り上がった気持ちがあ  
全に落ち込んでしまいました。

その日の夜、教員会議で「子ど  
もたちにやりたいことをトコトン  
追求させてくれ！」と訴える位の勢  
いがあったてもいいんじゃないか  
ということ指摘されました。衝  
撃的な言葉でした。私の班への思  
い入れ・意気込みがなかったこと  
を反省しました。

次の日、私はまず6年生と話し  
合いました。そこで花梨が「昨日  
は、みんなをまとめて、協力して  
やりたいと思って頑張ったのに、  
なかなかうまくいかなかった。悔  
しい、絶対成功させたい」と言っ  
て心から悔しがって泣き出しまし  
た。隣にいた桃絵も「トコトンや  
りたいのにつまづかない」と言っ  
て泣き出しました。私は、こんな

に真剣になっっている二人をみて、  
熱い思いが込み上げてきました。  
正直言つて二人のこんな姿を見る  
まで、私は子どもたちがこれほど  
真剣になるとは思っていました。真  
剣に。そんな自分がとても恥ずか  
しくなりました。でもそんな二人  
の姿を見られたことが本当に嬉し  
くて、涙が出てきました。三人で  
「このキャンプを絶対に成功させ  
たい。一人一人が楽しいキャンプ  
だったつてものを作りたいよね」  
と言いながら泣きました。そして、  
この思いを他の職員にも伝え「ま  
だ一日あるから、流しそつめんも  
お菓子の家もみんなで作ってトコ  
トントンや」という話をして班の時  
間に臨みました。昨日とは打って  
変わり、みんな思いっきり笑った  
し生き生きと活動しました。流し  
そつめんも川の中で竹を組み立て、  
そつめんだけではなくゼリーを流  
し盛り上がりました。お菓子の家  
も素敵な家が完成しました。本当  
にとても楽しくて、私自身「キャ  
ンプにきて良かった」と心から思  
いました。班のみんなの日記にも  
「楽しかった」「うれしかった」  
という文字が多く、すごく嬉しかっ

## 子どもの感想から-----6年 石倉花梨

### おわりの集い(キャンプ最終日)

キャンプ前から、いろいろと話し合ってきました。班が決まればかりの時は、全然協力できていませんでした。だけどプレキャンプの少し前くらいから、話し合いがすごくうまくできて、そのとき初めて楽しいキャンプになりそうだなと思いました。

1日目は、班の夕飯のメニューは、カルボナーラでした。カルボナーラは5月の料理コンテストのリベンジで絶対成功させたいという子がいて、作ることに決めました。その気持ちがうまくなつたようでもカルボナーラは成功できました。みんな「おいしい」と言っていました。私もそう思ったし、みんながそういうのがすごくうれしかったです。

2日目は、ずっと話し合ってきた班の時間でした。まず、竹を切り、キャンプ場まで運んで来ました。その後、竹の節をくりぬいて水を流す実験をしました。その時はみんな協力してやっていました。夜は料理の鉄人で流しそつめんの装置を作らなければいけなかったのも、料理を作る人と装置を作る人に分かれた。でもなかなか思い通りにいきませんでした。やっているうちに男の子が全然やるうとなくなって、私も桃絵ちゃんもどうすればいいか分からなくなって、私は班長だからみんなをまとめようと思ったけど、うまくみんなに伝えられなくて、私はいきなり泣き出してしまいました。その後は、流しそつめんの装置作りを他の教員が手伝ってくれました。でも、やっぱり自分たちで流しそつめんの装置を作りたいかったです。

3日目は、朝から6年と大谷で班のことを話し合いました。その話は、みんなで協力して、やりたいことをやっつけていこうという話でした。その話を4・5年生にも言って、それから流しそつめんの装置作りを始めました。話したことが良かったのか、みんな協力してできました。私は、良かったと思いました。装置を作ったことも流しそつめんを流すのもおもしろかったです。特にゼリーを流すのがおもしろかったです。みんなすごく楽しそうにしていました！だからうれしかったです。その後は、みんなでお菓子の家をつくりました。役割どおりやって、うまくお菓子の家ができました。

私はキャンプで班長をやったすごく大変でした。だけど、やりがいがあったと思いました。

たです。  
私はエルムで子どもたちを教えるようになってから、初めて子どもたちと「心が通い合った」という経験をしました。このキャンプで経験したこと、子どもたちを信じていることを絶対に忘れずに、これからのエルムの授業を作っていきたいと思います。

# 自分の「宝物」を見つけた夏



## 2007年度 中高合同合宿

毎年、赤城山で開催されてきたエルムの中学部高校部合同合宿。今年度は、開催地を群馬県水上に変更し、心機一転リニューアルとなりました。

子どもたちにとって、夏はとても大切な期間となります。学校から離れて、じっくり「自分」と向き合うことのできる大きなチャンスだからです。思春期真っただ中の中学生や高校生にとって、こころと頭と体をたっぷりとはたらかせて、日常では見つけにくい様々な価値観、とりわけ、豊かな人間観や学習観にふれることは、欠かすことのできない重要なことです。そういった意味で、夏の取り組みの核にあたる夏合宿は、子どもたちの全面的成長と発達をめざす私たちにとって、年間の教育実践の節となる大切な行事として位置付けていきます。

毎年、赤城山で開催されてきたエルムの中学部高校部合同合宿。今年度は、開催地を群馬県水上に変更し、心機一転リニューアルとなりました。

子どもたちにとって、夏はとても大切な期間となります。学校から離れて、じっくり「自分」と向き合うことのできる大きなチャンスだからです。思春期真っただ中の中学生や高校生にとって、こころと頭と体をたっぷりとはたらかせて、日常では見つけにくい様々な価値観、とりわけ、豊かな人間観や学習観にふれることは、欠かすことのできない重要なことです。そういった意味で、夏の取り組みの核にあたる夏合宿は、子どもたちの全面的成長と発達をめざす私たちにとって、年間の教育実践の節となる大切な行事として位置付けていきます。

エルムの合宿では、中学部は学年を越えた縦割りの「団」を構成し、様々な活動に取り組みしていきます。何かを集団で共に創りあげるといふ経験の乏しい子どもたちにとって、これは大変なことです。中学3年生が中心になって合宿前から準備を始めますが、なかなかうまくいきません。思うようにいかない現実になり、ぶつかり合いが生じます。そこで子どもたちは自分の本音をぶつけ、他人の思いに耳を傾けるようになります。

エルムの合宿を一度でも経験した子なら誰もが持つ、伝統とも言うべき「合宿を成功させた」という大きな思い……、この思いが軸となって、子どもたちは自分と仲間に向き合いながら、少しずつ気持ちを一つにして団をまとめていきます。

高校部は、それぞれの学年ごとで「団」を構成します。合宿に参加しているそのほとんどが激動の合宿を経験し、中学部を卒業していった子どもたちです。その高校生たちにとっては、様々な活動や学習・話し合いを通じて、さらに中学生の真剣な姿に触れることにより、もう一度中学部でつかみとった宝物を振り返り自分の日常を深くとらえ直します。さらに「なりたいたい自分」

もの」を深く探り、自分自身の価値観を広げていきます。

このような「エルム文化」でも言うべき自前の文化を集団的に創造することを通じて、合宿をやりきった子どもたちの胸の中には、この後の感想文でも紹介するように、それぞれにとつての困難を自分たちの力で乗り越えたという達成感と感動、自分が自分でいいんだと思える確かな自信、それを受けとめてくれる仲間に対する信頼感で溢れています。

依然として根強い競争主義的な学力観、文化的な貧しさ、時代に対する閉塞感など子どもた



中3の授業風景。今年度から学習環境も大幅に改善されました。



スポーツ大会でのつなひき。毎年多くの感動が合宿には詰まっています。

ちを取り巻く日常は相変わらず厳しいものがありますが、この合宿で新しい自分と仲間の可能性をつかんだ子どもたちの姿には、そのような日常を力強く乗り越えてゆける限りない可能性が見事にみとれます。今年の合宿スローガンは「輝いた自分が見える夏」。子どもたちにとつての輝きに満ちた「宝物」が溢れていた二〇〇二年の夏合宿でした。

## 7日目 川居高志(中1)

7日目 川居高志(中1)  
今日は本当に楽しかった。もう本当に書ききれないくらい。まずスポ大。本番直前まで死ぬ気で練習した。大なわは練習のとき全然飛べなくてスゴイ大変だった。でも本番はみんなの気持ちが一つになった気がした。綱引きも本当に本当に勝ったときはうれしかった。スゴくスゴくスゴくうれしくて泣いてしまった。このときの気持ちはとても文章には表せない。ダンスだって本当に良かった。三段タワーも本当に成功してよかった。本当の本当の本当によかった。あとは結果を待つのみ……。そして、キャンプファイヤー。とうとうスポ大の結果発表。結果は優勝!!!そのときは本当にびっくりして、本当に何も言えなかった。でも、その後の歌やダンスは本当に騒いだ。のどが痛くなった。本当に楽しかった。もう本当に感動の嵐。明日は東京に帰る。でも、この合宿がもうすぐ終わると思うと本当にさびしくなる。やっと今日「輝いた自分」が見つけれられたような気がしたのに……。

高校生へ。本当に最後までありがとう。綱引きのとき「あきらめるな!」って言ってくれたとき、本当にうれしかった。だから、僕たちもがんばれた。ダンスだってみんながいなかったら成功させられなかった。スポ大で優勝できたのは本当にみんなのおかげ!本当に本当にありがとう!!!

# 合宿 “おもひで” 写真館



7日目 伊林景(高3)

とうとうとうとう合宿も終わってしまう。本当にあっという間だったなあ～。でも、その中でちゃんと“いいモノ”見つけたよ。勉強だけじゃなくって、人として大切なものとか、エルムっ子の芯みたいなものとか、これから生きていく上で、それは目の前の受験だけじゃなくって、もっと先まで役に立つような大切なものを得たよ。

やっぱり勉強は予定してたことの半分も終わらなかったけど、それでも、みんなのこともよく分かったし、たくさん汗もかけたし、大切なものも見つけたし。“来てよかった”の方が優勢です。9回ウラで10対0みたいな。本当に、はじめは「やばすぎる 勉強時間が足りなすぎる」とか思って、ちょっと後悔もした。スポ大とかレクとか、自分の中で「妥協」って割り切ってやってたところがあった。でも、だんだんとそれは「妥協」じゃなくなって、むしろ「自分から求めるもの」になっていったんだよ。それに気づいてちょっと安心しました。本当にわたしはエルムっ子でした。やっぱり自分のどっかでは「エルムっ子」でいたかったんだな。

これから東京に帰っても、「受験生である以前にエルムっ子」ってことを忘れず、強く正しく豪快に生きていきたいと思います!!!素晴らしい合宿でした!!!

## エルムのホームページが新しくなりました!

エルムのホームページが内容・デザインともに一新されました。各クラスの通信や、合宿・キャンプの写真等もアップしています。ぜひ、一度アクセスしてみてください! URLは..

<http://elm.m78.com/>

YAHOOやgoogleなどの検索エンジンでもキーワード“エルム”ですぐに見つかります。

## メーリングリストの登録を受け付けています!

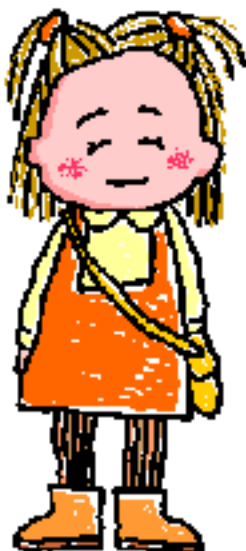
エルムでは、父母・サポーターとのコミュニケーションを幅広く行なうために、メーリングリスト(ML)による情報発信をしています。登録はホームページから簡単にできます。ぜひエルムへの意見や楡の木を読んでの感想などを投稿してください。みなさんの登録をお待ちしています。

## エルムの英会話クラス開催!

「エルムでも英会話を教えてほしい」という生徒や父母・OBの要望に応じて、今年度より英会話クラスを開講しました。少人数で、自分のペースでじっくり学べます。授業料もチケット制で、受講した分だけの支払いでお得です。くわしくは担当の矢沢までお問い合わせください。

## 看護・医療系コース開催!

今年度より、看護・医療系の学校への進学を目指す人たちのために、新しく看護・医療系コースを設置しました。病院や看護学校とも連携をとり、充実した授業を保証します。詳しいパンフレットをお送りしますので、関心のある方はお問い合わせください。(担当: 矢沢)



発行: エルムアカデミー

〒142-0053 品川区中延5-6-14-2F  
ホームページ <http://elm.m78.com/>

03-3784-5676 FAX 03-3784-5609  
メールアドレス [elm@kiwi.ne.jp](mailto:elm@kiwi.ne.jp)